

## 研究会活動記録

(2014年3月～2015年2月)

2014年3月28日(金)～30日(日) 春季合宿研究会 (於：箱根・木賀温泉KKR箱根宮の下)  
(課題研究)「子どもの声を取り入れた学校づくり」

・「理論的立場から」 水本徳明 (同志社女子大学)

・「学校づくりへの子ども参加に関する一考察—ネットワーク・ガバナンスの観点から—」

照屋翔大 (愛知東邦大学)

・「日本の学校における現状と課題—滋賀県における『子どもの権利に関する実態・意識調査』を中心—」

山本直子 (筑波大学大学院)

(シンポジウム)「これからの学級経営の在り方を考える—学級担任・管理職・研究者の立場から—」

・学級経営の現状と学年・学校経営への要望—学級担任の立場から

安東奈々氏 (東京学芸大学教職大学院院生、八王子市小学校教員)

・学級経営を支える学年・学校経営の現状と課題—管理職経験者の立場から

山本佐江氏 (東北大学大学院／元東京都小学校教員)

・学校現場の実状を踏まえた学級経営研究の展望：研究者の立場から

安藤知子 (上越教育大学)

(自由研究)

・「学校経営におけるナレッジ・マネジメント—子どもの実態を共有できる仕組みづくりを目指して—」

日比野圭祐 (名古屋市立大学人文社会学部卒業生)

・「旧教育委員会法下の『学区』論再考」

平井貴美代 (山梨大学)

・「学校経営学と教育マーケティングの視野」

小島弘道 (龍谷大学)

・「学校の教育課程の改善を支える教育政策の研究—市教育委員会の『専門性』に着目して—」

石田有記 (千葉大学大学院)

・「[事例報告] <学校力>向上を促進するN小学校の組織的取組の意義と課題—OJT研修への取り組みを軸として—」

安藤知子 (上越教育大学)

・「いじめ防止対策推進法26条などを踏まえた出席停止制度の適用範囲に関する私論」

山口亨 (会計監査院)

2014年5月10日(土) 月例研究会 (於：筑波大学東京キャンパス文京校舎)

・「外国人児童生徒在籍校の学校経営」

臼井智美 (大阪教育大学)

・「OJTに組織特性が及ぼす影響—小学校教員を事例として—」

村上正昭 (筑波大学大学院)

2014年7月26日(土)～27日(日) 夏季合宿研究会 (於：つなぎ温泉 ホテル大観)

(課題研究)「新しい教育課題と学校経営」

- ・「学力政策と学校経営—グローバル化に着目して—」 佐藤博志 (筑波大学)
- ・「人口減少社会における学校規模の多様性と学校経営」 加藤崇英 (茨城大学)
- ・「新しい教育課題と学校経営研究」 平井貴美代 (山梨大学)
- (シンポジウム)「東日本大震災後の被災地における学校教育の現状と展望」
- ・「岩手県における震災と学校教育の概要」 福島正行 (盛岡大学)
- ・「被災地における学校教育に関する先行研究の整理」 吉田ちひろ (筑波大学大学院)
- ・「被災地の学校での管理職経験から」 阿部雄至氏 (岩手県立盛岡商業高校)
- ・「被災地学校へ学生を統導する大学・大学教員の立場から」 市川洋子氏 (盛岡大学)
- (自由研究)
- ・「学級における他者との『関係』に対する教員の認識—中学校学級担任へのインタビュー調査を通じて—」 内田沙希 (筑波大学大学院)
- ・「子どもを学校や地域の主体として位置づける試み—米国『パブリック・アチーブメント』の困難な学校での導入事例を通して—」 古田雄一 (筑波大学大学院)
- ・「アメリカにおける学校改善を支援する地方教育行政のリーダーシップ—『学区を基盤とした学校改善』の可能性と課題—」 照屋翔大 (愛知東邦大学)
- ・「学校経営における『学校づくり』の視野」 小島弘道 (龍谷大学)

2014年9月13日(土)月例研究会(於:筑波大学東京キャンパス文京校舎)

- ・「新たな教育課題と学校経営—認定子ども園にみる『教育と福祉のクロスボーダー』の内実—」 鈴木瞬 (環太平洋大学)
- ・「新たな教育課題と学校経営—学校における経営課題としての『いじめ問題』」 安藤知子 (上越教育大学)

2014年12月13日(土)月例研究会(於:筑波大学東京キャンパス文京校舎)

- ・「文献検討:佐藤博志・岡本智周著『「ゆとり」批判はどうつくられたのか:世代論を解きほぐす』(太郎次郎社エディタス、2014年)」 山本直子 (筑波大学大学院)
- 著者からのリプライ 佐藤博志 (筑波大学)・岡本智周氏 (筑波大学)
- ・「私学経営事始—私立小学校経営研究の可能性—」 田中均 (東京女学館)

2015年2月14日(土)月例研究会(於:筑波大学東京キャンパス文京校舎)

- ・「国際バカロレアに関する研究—IB教員の専門性開発をめぐる理念と現実—」 福田美紀 (筑波大学大学院)
- ・「茅ヶ崎市立梅田小学校の学校経営」 栗原幸正 (茅ヶ崎市立梅田小学校)

# 大塚学校経営研究会会則

## 第1条（名称）

本会は、「大塚学校経営研究会」と称する。

## 第2条（目的及び活動）

本会は、学校経営を中心に教育学全般に関する研究を目的とし、各種研究会の開催、紀要及び各種出版物の刊行を行い、会員相互の交流を図るものとする。

## 第3条（会員）

本会は、会員及び名誉会員から成る。

2. 会員は、本会の目的に賛同し、活動に参加を希望する者で、会員1名の推薦をもって、入会を認められる。

3. 名誉会員は、本会が推挙する。

## 第4条（組織）

本会に、会長、事務局長、運営委員、紀要編集委員、会計監査、幹事を置く。その任期は3年とする。

2. 本会を運営するため、運営委員会及び事務局を置く。

3. 総会は、原則として春季合宿において行うものとする。

## 第5条（研究会）

本会でを行う研究会は、定期研究会と合宿研究会からなる。

## 第6条（会計）

本会の会計年度は、3月1日に始まり、翌年2月末に終わるものとする。また、会費は、一般会員10,000円、学生会員5,000円とする（名誉会員は除く）。

2. 3年以上会費の納入を怠ったものは、会員としての資格を失う。

## 第7条（紀要）

本会の紀要は、『学校経営研究』と称し、年1回毎年4月に刊行する。その編集規程は、別に定めるものとする。

## 第8条（雑則）

本会の事務局は、筑波大学に置く。

## 第9条（附則）

本会則は、昭和51年3月1日より施行する。

2. 本会則は、昭和54年4月1日より施行する。

3. 本会則は、昭和56年4月1日より施行する。

4. 本会則は、1991年4月1日より施行する。

5. 本会則は、2003年4月1日より施行する。

6. 本会則は、2008年4月1日より施行する。

## 『学校経営研究』編集規程

1. 本紀要は、大塚学校経営研究会の機関誌として年1回発行する。
2. 本紀要は、本会会員の研究論文を掲載し、併せて、文献・資料の紹介、その他研究活動に関連する記事を登載する。
3. 本紀要に論文を掲載しようとする会員は所定の論文投稿要領に従い、紀要編集委員会事務局宛に送付するものとする。
4. 論文の掲載は、紀要編集委員会の合議によって決定する。
5. 掲載の場合は、若干の修正を加えることがある。ただし、内容について重要な変更を加える場合は、執筆者と協議する。
6. 本紀要に掲載したものの原稿は、原則として返還しない。
7. 本紀要の編集事務についての通信は、下記宛とする。

〒305-8572

茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学教育学系 学校経営学研究室内

『学校経営研究』編集委員会事務局

## 『学校経営研究』編集基準

1. 編集は、次の区分にしたがって行う。  
(括弧内は、400字詰原稿用紙の枚数)
  - (1) 特集論文
  - (2) 特別論文—学校経営学に関する本格的な研究論文(80枚程度)。
  - (3) 自由研究—学校経営学については教育学の発展に寄与する研究論文(50枚程度)。
  - (4) 研究ノート—研究論文と並立するもので、とくに研究動向や史・資料の紹介に重点をおきつつ提言や考察を加えたもの。または、その他の萌芽的な研究(50枚以内)。
  - (5) 学校現場の問題—学校経営や教育実践に関する諸問題の分析、事例報告など(50枚程度)。
  - (6) 書評・資料紹介—学校経営学に関する重要文献の書評、重要資料の解説。
  - (7) 研究会彙報
  - (8) その他、必要に応じて編集委員会が設けるもの。
2. 上記(3)(4)(5)については、研究会会員の自由投稿を募る。  
その他については、編集委員会が編集にあたる。その際、会員からの要望・意見を積極的に聴取し、検討すること。
3. 本基準は、第38巻より適用する。

## 『学校経営研究』論文投稿要領

1. 論文原稿は、未発表のものに限る（ただし、口頭発表、プリントの場合は、この限りではない）。
2. 編集委員会において枚数を指定するもの以外の論文原稿は、400字詰原稿用紙A4判50枚以内とする。ワープロ使用の場合、文字数、行数および枚数については、別に定めた執筆要領による。
3. 原稿に図表のある場合は、本文に換算する。図表は、論文原稿末尾に添付し、本文中には挿入すべき箇所を指定する。
4. 引用文献は、論文末にまとめて提示することとし、その方法は、次の例に従うこと。
  - (1) 吉本二郎『学校経営学』国土社、1965年、123頁。
  - (2) 永岡 順「現代学校経営計画論」『学校経営研究』第1巻、1976年、15頁。
  - (3) Griffith, D. E., Administrative Theory, Appleton-Century-Corfts Inc., 1959, p. 21
  - (4) Weick, K.E., "Educational Organization as Loosely Coupled System,"  
*Administrative Science Quarterly*, Vol. 21, 1976, pp. 75-76.
5. 論文原稿には、必ず論文題目の欧文を付すこと。
6. 論文原稿は、原則としてメール添付で送付すること。郵送の場合は、3部（コピー可）送付すること。原稿は原則として返却しない。
7. 論文投稿の申し込み期限は毎年8月末日とし、原稿提出期限は毎年10月末日とする。

# 大塚学校経営研究会研究奨励賞授与規程

## 第1条（趣旨及び名称）

大塚学校経営研究会（以下、本会）会員の優れた研究を奨励し、本会機関誌『学校経営研究』の水準向上を図るため、「大塚学校経営研究会研究奨励賞」（以下、賞）を設ける。

## 第2条（対象論文）

選考対象は、本会の若手会員が『学校経営研究』に発表した「自由研究」（但し、個人研究論文）とする。若手会員とは、当該論文を投稿した年の10月末日現在で、原則として学生会員または35歳未満の一般会員であった者をいう。

## 第3条（選考）

選考は、紀要編集委員会が行う。

2. 選考は、1年間を単位として行う。

3. 紀要編集委員会は、授与対象となる論文について、運営委員会に報告し、承認を得るものとする。

4. 選考に関する内規は、別に定める。

## 第4条（授与点数）

点数は1年間で1点とするが、該当なしであることを妨げない。

2. 賞の授与は、会員一人につき、1回限りとする。

## 第5条（表彰）

賞は、賞状及び副賞（研究奨励費）とする。

2. 賞の授与は、夏季合宿研究会において行う。

## 第6条（紀要編集委員会への委任）

この規程に定めるもののほか、必要な事項は紀要編集委員会が決定する。

## 第7条（規程の改正）

本規程の改正については、運営委員会の議を経て、総会の承認を得るものとする。

## 附記

本規程は平成22年4月1日から施行する。

2. 研究奨励費は一論文につき、金5万円とし、特別会計（「特別事業費『研究奨励費』」）より支出する。

## 編集後記

『学校経営研究』第40巻記念号をお届けします。

本巻の特集では、10年ごとの節目の年であることを意識し、近年の様々な教育課題が学校経営につきつける課題と今後の展望について、5人の論者に検討をお願いしました。さらに新たな試みとして、特集論文への投稿募集を行いました。残念ながら投稿希望者はありませんでした。しかし、会員の自由な発想を紀要編集に生かすためには、今後もテーマによっては同様の取り組みを試みる価値があると考えております。

自由研究には1件の申し込みがありましたが最終的に論文が提出されず、掲載ゼロということになりました。照屋会員の特別論文に加えて書評が3編と、本巻は全般的には充実した内容となったと言えますが、自由研究論文の掲載がないということは研究紀要としては大きな問題であると考えます。自由投稿論文を増やすための条件整備について、今期の編集委員会では繰り返し検討してまいりましたが、具体的な対応策を案出するには至りませんでした。第40巻をもって今期委員会の任務は終了となりますが、次期委員会にはこの問題の対応策についての検討を引き継いでいただけるよう要望いたします。

本巻のフィナーレに掲載いたしました座談会「10年間の教育経営改革をふりかえって」は、区切りの年の記念事業であると同時に、第30巻の座談会「10年間の学校経営を振り返って」につづく10年間の変化を記録する、という2つの意図を込めて企画いたしました。教育経営の課題は日々刻々と変わっておりますが、一定期間をおいて振り返ることによって、その時代特有の課題というものがはっきり浮かんでくることがあります。この会の記録が後年に歴史的資料としても活用されることを期待して、第30巻のときの主旨や条件をなるべく変えずに実施することとし、各世代を代表する会員諸氏にメンバーとして座談会に参加していただきました。特集が近未来の教育経営を見通す試みであるとすれば、座談会はその土台となる現時点を再確認できる内容となっております。両者を対にしてお読みいただき、長いスパンでの教育経営をともに展望していただければ幸いです。

本巻の編集をもちまして、今期の紀要編集委員会の3年間の任を終えます。この間に貴重な論考をお寄せくださいました会員諸氏、そして編集にご協力くださいました方々に、心よりお礼申し上げます。

2015年4月1日  
紀要編集委員長 平井貴美代